



雨の季節、家でゆっくり、本を読んでもみませんか？



『静かな雨』 宮下奈都／著 文藝春秋
短期間しか新しい記憶を留めておけなくなってしまうこよみと、大学の研究室で働く行助。ふたりの恋を、瑞々しい筆致で紡ぐ。

『慈雨』 柚月裕子／著 集英社
16年前の幼女殺害と酷似した事件が発生。かつて刑事として捜査にあたった神場は、退職した身で現在の事件を追い始める。元警察官の魂の彷徨を描く。



図書館カレンダー (6月)

20冊・3週間 借りられます

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			



今月の展示

小説

歴代本屋大賞受賞作

実用書

バラのある生活

梅に親しむ

趣味を見つけよう



館員おすすめの一冊

『ふるさとの手帖』

かつお／著 (KADOKAWA)

この本は、「日本の市町村、1741をすべて巡る」という、とてつもない目標を達成した著者が、旅先で撮った数々の光景を詰め込んだ写真集です。著者の「かつお」さんは、大学生の時にふとこの旅をはじめようと思立ち、費用のことや、大学の履修との兼ね合いなど、細かな計画を立てたそうです。そのいきさつや手段についても、この本の冒頭で触れられています。

こちらの写真集は、1741もある市町村の写真が、約320ページに収められているので、写真の大きさも小ささまざまです。見たい場所の写真が小さいときは、著者の「かつお」さんこと、写真家・仁科勝介さんのホームページをぜひご覧になってください。訪れた先々で随時ブログを更新されており、その土地で撮られた写真はもちろん、食べたものや出会った人々とのエピソードなどが細かくつづられています。「かつお」さんの飾らない文章が、温かみのある写真とよく合っていて、読んでいるとほっこりします。

2018年から始まり、約3年をかけて完成した「ふるさとの手帖」。心温まる美しい写真とともに、誰かのふるさとに思いを馳せてみませんか。(M)



新刊紹介



この他にもたくさんあります！
貸出中の本には予約ができます

『魔女街道の旅』	西村 佑子	山と溪谷社
『ろう女性学入門』	小林 洋子/編	生活書院
『不登校に陥る子どもたち』	成重 竜一郎	合同出版
『教師という接客業』	齋藤 浩	草思社
『トントンやさしい土木技術の本』	溝渕 利明	日刊工業新聞社
『せいろ蒸し大全』	岩崎 啓子	河出書房新社
『音読教室』	堀井 美香	カンゼン
『韓国語の語源図鑑』	阪堂 千津子	かんき出版
『貴方のために綴る18の物語』	岡崎 琢磨	祥伝社
『星落ちて、なお』	澤田 瞳子	文藝春秋
『ひきなみ』	千早 茜	KADOKAWA
『カード師』	中村 文則	朝日新聞出版



西館日和



今年は平年より随分早い梅雨の訪れでした。しとしとと雨が降る日が続いている今日この頃、植物や生き物にはとても大切な雨ですが、雨が続くと子どもたちは外で元気に遊べないし、洗濯物もカラリと乾きにくく、なんだか雨を恨めしく思ってしまう。そんな雨の中でも鮮やかに花を咲かせている紫陽花は、雨に濡れた姿がとても美しい花です。土壌の酸性度により花の色も違ってきます。濡れた葉っぱも生き生きとして綺麗です。梅雨入りが早かった分、雨との付き合いも長くなると思いますので、どんな色合いの紫陽花と出会うことができるか、好きな花の色を見つけて、花言葉や育て方など本で調べてみてはいかがでしょうか。

5月の梅雨入りの頃に、西諫早図書館で皆様に5年間という長い間お世話になりました池田真由美分館長が異動となりました。後任として勤務することになりました野下澄子です。初めての職場で戸惑う事ばかりですが、これからも皆様に親しまれ愛される図書館を目指したいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

分館長 野下